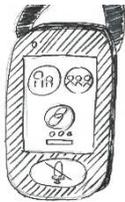


Q1

学校での配慮または情報保障には
どのようなものがありますか？



配慮・情報保障	内容
<p>座席の位置</p> 	<p>対象児のきこえの特徴に応じて座席の位置を検討します。例えば、右耳よりも左耳の聴力が良い場合は、中央よりも右側の座席にする。また、話し手から距離があると聞きとりにくくなる場合は、前側の列にするなどがあります。</p> <p>1列目では、他の友達の様子が見られないため2列目から3列目を選ぶ人が多いですが、人によって様々です。</p>
<p>補聴援助システムの活用</p> 	<p>補聴援助システムを活用する事で、話し手から距離があったり、騒がしい場所で話をしたりする場面でも話し手の声が聞こえやすくなります。</p> <p>(詳しくはQ7をご覧ください)</p> <p>使うタイミングは対象児によって様々です。</p> <p>英語の授業だけ活用する子もいれば、休み時間やグループディスカッションの時にも活用する子もいます。</p>
<p>教室環境</p> 	<p>椅子を引く際に出る音が、難聴児にはとてもうるさく聞こえることがあります。それを防ぐために椅子の脚にテニスボールをつける方法があります。</p>
<p>視覚教材の活用</p> 	<p>聞き漏らしによる「わからない」を防ぐために、板書や掲示物などの視覚教材を活用します。書くことに集中していて、話し手のことばを聞き漏らしてしまったり、違うことばと聞き間違えたりする事があります。そのためにも目で見てわかる環境はとても大切です。</p> <p>また、ICTを活用する方法もあります。話し手のことばをスマートフォンやタブレットのマイクで拾い、音声を字幕で画面上に表示するアプリなどもあります。</p>
<p>リスニングテスト</p> 	<p>補聴器や人工内耳では、スピーカーなどから出る音が聞きとりにくい場合があります。そのため、リスニングのテストを別室でスピーカーの近くで受けたり、補聴援助システムとラジカセを直接繋いで実施したりしています。また、スピーカーから一番近い席にしてもらい、同室で実施している人もいます。</p>

対象の児童生徒、お子さんによってきこえ方は様々であり、必要な配慮や支援も様々です。

本人とよく相談してからその子にあった必要な配慮、情報保障等を行いましょう。

補聴援助システムの使い方やその他の配慮など詳しく知りたい場合は、小中学校・高等学校等サポート事業をご活用ください。